



## 職場の“花”から“戦力”へ 頑張れ「ドボジョ！」

男の聖域といわれた土木業界に女性の進出が目立っている。名付けて「ドボジョ」。土木関係の職場で働く女性を最近はこちらで呼ぶ。少女マンガの主人公としても登場し、注目度は高まる一方だ。かつては職場の“花”のような存在だった女性社員が立派な“戦力”として活躍しているのである。(株)安中建設(本社・鹿沼市、安中正男社長)に勤務する荻村真紀さんもそんな「ドボジョ」の一人である。

私は大学で土木を専攻し基礎的なことを学び、最初は測量会社に就職いたしました。当時は道路の設計に携わっており、ちょうど手書き図面から CAD に替わる時期で CAD を勉強する機会に恵まれました。社会人としての基礎から土木設計の勉強をし、上司の助言をいただきながらなんとか一通りの設計ができるようになると、将来どんな道路が出来上がるのかとだんだん楽しくなってきました。

その後、現在の会社に入り、初めて現場に出ることになったとき、それまで道路の設計をしていたこともあったので、なんとなく現場もわかるのではないかと考えていましたが、それは大きな間違いでした。現場の段取りも全くわからず、なにもわからずおろおろすることばかりでした。設計図はあくまで施工するための基礎となるもので、それぞれの現場ごとに安全管理、工程管理、品質管理など細かく施工管理をすることで安全な道路や橋梁、河川護岸が出来上がるということを実感いたしました。

初めての現場は道路工事でした。初日に「安全管理についてなっていない！」と怒られたことを今でも思い出します。毎日危険と隣り合わせで作業をしているということにも気づいていなかったのです。

掘削して型枠を組み、コンクリートを打設して擁壁が出来上がったときはとても感動しました。



▲測量はバッチリ！



▲新婚旅行にて



▲頼もしい先輩たちに囲まれて

土木の現場は天気にとっても左右されます。今までは天気予報をその日の朝に見るぐらいでしたが、雨が降れば現場は休みになることはもちろん、大雨や台風のときは洪水や土砂崩れの危険があるので現場の見回りをすること、風が強いときには仮囲いや看板が倒れていないか心配になります。土木工事現場は暑かったり寒かったり、自然のままの環境の中の作業なのでつらいこともあります。それでも毎日現場が進み、工事が完成した時の達成感と感動は計り知れないものがあります。

最近ではゲリラ豪雨での洪水や、地震などで災害が発生しています。今後も自然とうまく付き合い、人々の暮らしを便利に、そして何より安全な生活を守るために、もっと多くの方に土木工事にご理解・ご協力いただき、災害にも強いまちづくりができる建設業になっていければいいと思います。

株式会社 安中建設 荻村真紀